

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091400097		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	海南グループホーム みかんの里	【ユニット名:2階】	
所在地	和歌山県海南市下津町610-1		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果市町村受理日	平成29年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JijyoSyosyoCd=3091400097-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JijyoSyosyoCd=3091400097-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成29年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

可能な限り毎日散歩や外気浴を楽しんで頂き、適度な運動や気分転換が図れるよう配慮しています。入居者様の買い物は個別に付き添い行っており、日々の食材は職員と共に近隣のスーパーへ買いに出かけます。又、皆で外出する機会も設け、楽しみの1つになる様に努めています。食事は毎食手作りで入居者様と一緒に調理や取り分け等を行ない家庭的な雰囲気維持、ご本人のやりがい、居場所を確立して頂けるように心掛けています。屋外には家庭菜園や花壇を作り野菜の収穫等もお手伝いして頂いています。花壇には家族様から頂いた鉢植えを植え替え、長く楽しんで頂けるようにしたり工夫しています。入浴は曜日や回数に制限なく、ご自宅での生活と変わらないよう夕方から行う様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から季節を感じられる木々や隣の池の亀が見え、利用者の会話の中によくでてる。一人ひとりを大切にすることに力を入れ、状況を見て食事時間を変えるなど、画一的にならない個別サービスに取り組んでいる。ホームが家族的な雰囲気であることと地元の利用者が多いこともあり、家族が頻りに訪問しており、利用者同士が互いに思いやりを持って生活している様子が見受けられる。利用者がスタッフとともにホームの敷地内で野菜を栽培しており、収穫した作物が食卓に出されることもある。また、自由な生活の中でも安全面に細心の配慮がなされており、食事前に誤嚥予防口腔体操を行い、服薬確認はスタッフ二人で行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境で地域と繋がりながら暮せる「我が家」として事業所理念を各フロアー、玄関に掲示し、案内パンフレットにも記載しています。職員は朝礼では必ず唱話し周知徹底、日々の支援が行えるようにしています。	利用者とスタッフは大きな家族との気持ちで接し、我が家としての自然体の場づくりを実践している。また、理念を朝礼時に唱和し、理念に則した目標も各フロアーに掲げスタッフの意思の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今期は自治会主催の長保寺さくら祭りや消防団の消防訓練などに参加しています。近隣の中学校から依頼あり、夏休みの体験学習等の受け入れも予定しています。	地元の中学校から毎年1週間の職業体験を受け入れ、期間中には孫と過ごすように喜ぶ利用者の様子が見られた。近くのスーパーとは馴染みの関係であり、食材の買い物に車で出かけ、町内をドライブすることもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加や運営推進会議の開催等で認知症に対する理解を深めて頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事、活動、入居者様の生活状況の報告を行ない、多様な意見交換を行っています。頂いたご意見は即実行できるよう努め、サービス向上委員会等でも検討するようにしています。	平日の昼間に運営会議を行い、本人・家族・市役所職員・自治会長・民生委員等が集まり、意見交換・情報交換をしている。開設から3年が経過して、ホームが地域に貢献できる課題を検討中である。	本年度の町内会役員編成となったことを機に新体制での運営推進会議を活用して、地域の中心的な拠点としての更なる地域貢献を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや高齢介護課の職員に運営推進会議に参加して頂き情報交換の場を設けています。介護保険課や社会福祉課にも出向き相談や情報を頂いています。社会福祉課からは実態調査などの定期的な訪問をあり協力体制が築けるように努めています。	市の担当者とは運営推進会議で顔の見える関係ができ、制度のことや提出物など電話でやり取りして協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止委員会議を行ない、身体拘束に対する取組みを行っています。外部研修への積極的な参加も奨励し研修内容を自施設で報告・再研修を行うなど、職員間で周知し理解を深め、拘束や抑制しない介護を実践していきます。	環境の変化で、不安による帰宅願望が生じないように入居前に関係性を構築する時間を十分に設け、状態によっては家族の協力を得て、何度か行ったり来たりする機会を設ける場合もある。委員会を設置して定期的に身体拘束の研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会議を行ない、虐待防止に関する取組みを行っています。外部・内部研修への参加や職員間で周知し理解を深め、日常の何気ない言動の中にも不自然な事はないか再度虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修では権利擁護について職員一同が学ぶ機会を設けています。又、外部研修への参加を奨励し制度の理解と必要性の周知を図っています。現在の入居者様で制度を利用されている方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご本人や家族様と十分な面談・説明を行ない又、随時不安や疑問にもお応えし納得して頂いてから締結するようにしています。解約や改定時も同様にお応えするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を1階玄関に設置し申しやすいように配慮しています。家族様の訪問時にはお声掛けし面会の邪魔にならない程度に会話する等、話しやすい環境の提供を心掛け、お応えできるように努めています。	意見箱の利用はないが、家族の訪問時に苦情や意見、要望を聞ける関係が築かれている。電話で尋ねたり、毎月の請求書送付の際に利用者の日常報告を同封するなどして要望や意見が出しやすい状況を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の開催、意見交換の場を設けています。又、個別面談も行ない意見や相談ができる環境作りにも努めています。	話を聞く姿勢を持って管理者からスタッフに声をかけている。かつて現場で同僚として働いていた管理者なので、話しやすく相談できる関係である。代表者が現場の意見を取り入れて運営に反映できる体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回の人事考課表の策定や面談を行って個々の仕事に関する意識や思いを聴く機会を設けています。働きやすい職場環境が整備できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な研修参加を奨励しています。外部研修に参加した際は自施設での報告や勉強会を行ない他の職員の知識や技術の向上に繋がるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や地域ケア会議など様々な研修や会議を通し、同業者と情報交換を行ない交流の輪を広げると共に自施設へ反映する事によりサービスの質向上へと繋げて行きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは関わりを持つ事で馴染みの関係を確立できるように自宅訪問であったり、施設見学に来て頂いたりしながらご本人の困り事の把握や不安解消に努め、安心して入居して頂けるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や電話相談など初回時から相談し易い雰囲気作りを心掛け、家族様の思いや不安に寄り添う姿勢で対応しています。不安や疑問はその都度話し合いながら納得して利用して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望やケアの方向性を話し合い状況に応じて必要なサービスの情報提供を行ない他のサービスや事業所を紹介させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に関わりを持ち、調理や洗濯干しといった家事を一緒に行う、食事、散歩に出るなどご本人が「わが家」で暮しているのと同じように役割りを持って生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の制限は設けておらず、来訪しやすい雰囲気作りを心掛け、ご本人の日々の様子を共有できるように努めています。又、季節の行事のご案内をし家族様と一緒に過ごす時間の提供や配慮をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の面会者にも来訪して頂きやすい雰囲気作りを心掛けています。時にはご本人の希望で馴染みの場所への外出にも同行しています。	地元に住んでいた利用者が多く、買い物に出かけた時に自宅に立ち寄ったり、自宅付近にドライブで行く機会を作るなど、それぞれの利用者に合わせて随時対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、日々色々な場面が見受けられますが助け合いながら生活できている事が殆どです。時折口喧嘩になったりした場合は職員が潤滑油の役割りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人の様子伺いや家族様の不安や困り事の相談に応じています。必要時には転院先や移転先に情報提供などの支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や思いを日々の会話から聴いたり、把握するように努めています。困難な場合は様子や表情、隠された言葉見逃さず職員間で周知し又、家族様と相談し取り組んでいきます。	日々の利用者の言動から思いを見逃さない工夫と記録を実施している。情報の共有に努め、それぞれの思いや状態を把握し、きめ細やかな対応に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人、家族様、各サービス事業所から情報収集を行ない、フェースシートを作成し情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録や日々の連絡帳を下に、状態の把握に努めています。定期的カンファレンスを開催しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング・カンファレンスの開催。ご本人、家族様、主治医や職員など各関係者と話し合い計画に反映するように努めています。	一人ひとりの状態を記録した申し送りを徹底しており、関係者の意見を持ち寄ったカンファレンスを3ヶ月毎に行い、介護計画の見直しを実施している。状態の変化に即した計画内容であることが高く評価できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの作成。日々の様子や実践記録を職員間で共有する。特記事項、連絡事項を申し送りで周知し、3ヶ月毎の計画の見直しに反映しご本人の望む暮らしの実現に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のサービス提供が行える様に、ご本人との関わりを深め携わる者全てでチームワークを構築し必要に応じた柔軟な対応ができる様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店舗への日用品や食品の買い物、東光寺や長保寺への散歩等を日課とし、その中で地域の方々との交流が持て一人ひとりが「わが家」としての暮らしができる様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診にてホームの提携医(さいかクリニック院長)が健康管理を行っています。希望する医療機関の受診や緊急時の入院などの支援も行っています。	利用者の多くが協力医をかかりつけ医として定期的な往診をうけている。他の医療機関への受診は基本家族対応だが、状況に応じて支援する体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、介護職員が日常の変化や異変を伝え病気の早期発見に努めています。又、主治医とも連携も密に図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を図り、面会にも伺い安心して治療・療養できる様に努めています。最近では何処の病院も地域連携室が設置されていて連携が図りやすくなっています。担当医と主治医に相談しホームでの健康管理や注意点を踏まえ早期退院できる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在事例はありません。希望がある家族様にはターミナルケアの取組みは行っていきます。ホームとしてできる事を説明し、話し合いを重ね方針に沿って要望にお応えできる様に努めます。	入居時に重要事項説明書などを用いて、ターミナル時等の意向の確認が十分になされている。看取りを取り組んだケースはないが、ターミナルケアに対するマニュアルを作成し、対応できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	観覧できるようにテキストやマニュアルを設置しています。緊急時の連絡網に沿って迅速に連絡・連携を図り、大事を防ぐように周知しています。内部研修で実践や勉強会も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1~2回消防立会いの下、避難訓練を実施しています。火災や災害に備えたマニュアルの設置、避難経路の確保と周知、勉強会も行っています。	地区の避難場所は近くの小学校になっている。緊急通報システムを導入している。消防署の協力の下で年2回利用者スタッフ全員で避難経路を確認する避難訓練を行っている。	日頃から地域住民との関係を深め、緊急時の協力体制の構築に向けた働きかけが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修や会議の中で常に話し合いを持っています。虐待防止委員会やサービス向上委員会でも対応についての検討会を行ない実践に活用できるように努めています。	定期的なサービス向上委員会等で、一人ひとりの利用者に対する接し方について話し合っている。特に排泄介助でのプライバシーを重視した対応の実践について確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりを大切にし、まずは傾聴する姿勢を職員が徹底するように心掛けています。ご本人が納得して生活できる様に努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務優先にならない様に注意し、入居者個々のペースでその日を快適に過ごせるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を一緒に選んだり、買い物で好きな物を購入したり、それぞれに気を配る配慮を行っています。2ヶ月に1回は外部から理美容サービスにも来て貰っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要望にお応えできる献立の提供と個々に食べやすい調理の工夫をしています。調理から方付けまでを一緒に行ない自宅での食事のような環境の提供に努めています。	献立や食材の買い出しはスタッフと利用者が相談して行っている。敷地の一角に畑があり、入居者とともに育て収穫した野菜が食卓にできることもある。状態に応じた関わりで食事前のテーブル拭きや配膳下膳をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に偏りがないように注意し食事量や水分摂取量の記録をつけ、必要量の確保と個々の状態や様子を見ながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。必要に応じ職員が付き添います。様子から歯の異常を発見した場合は提携の歯科医に往診に来て頂きます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し定期的に声掛けや付き添いを行う事で失敗を減らしオムツの使用を減らす事ができています。オムツに頼らずトイレやポータブルで排泄して頂けるよう工夫し自立支援を行っています。	排泄パターンやサインを把握し、できるだけトイレやポータブルトイレで排泄できるよう支援している。おむつはずしにも取り組み、日中はトイレで排泄できるようになる成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底や食物繊維を多く含む食材の提供を心掛けています。又朝のラジオ体操の参加や散歩等の適度な運動も便秘の改善に繋がるので進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自宅で入る時と基本同じように、毎日夕方から入浴して頂けるように準備します。個々の体調や気分によっては入れられない方もいらっしゃいますが気持ちよく入って頂ける様に工夫しています。	入浴は自宅で生活していたころの習慣に従って、夕方に入れるようにスタッフの勤務シフトを組み対応している。重度の利用者には安全を重視して二人体制で介助している。	
46		○安眠や休息の時間 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の取り決めは特になく、自由に過ごして頂ける様に配慮しています。個々のペースに合わせて休息したり入眠前には必ず挨拶を交わし安眠できる様に心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋・服薬説明書を綴り、職員が周知し内容を把握出来るように努めています。服薬の変更などあれば伝達事項・申し送りを徹底し行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴などを生かした作業や家事など、それぞれに役割を持って、職員と一緒にしています。やりがいや楽しみに繋がられる様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩以外に買い物やドライブなどで利用者様と出掛ける機会を設け楽しんで頂いています。家族様との外出も自由にして頂き、家族の絆が希薄にならない様に努めます。	毎日の買い物に希望者が交代で出かけたリ、ドライブなど外出の支援を頻繁に行っている。日頃行っている周辺の散歩に加えて、花見の季節には距離を伸ばして近くの寺まで歩くなど、目的を持って、楽しみを感じつつ達成感も味わえる外出を企画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族様に管理をお願いしています。こちらでは日常的に必要な消耗品などの購入の為、小口現金をお預かりし管理させて頂いています。外出時やご本人が必要な時は持参して頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればフロアーの電話を使用させていただきます。夜間は時間帯により緊急時以外は相手様のご都合にも配慮し控えていただく場合もあります。お手紙や郵便物は近隣のポストに投函に行きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングの共用空間はソファやテレビを置き、ゆったりとくつろげるスペースを確保しています。リビングの大きな窓はカーテンで光の調整を行っています。壁には入居者様が季節毎に壁画を作成して飾り、季節感が感じられるように配慮しています。トイレや浴室は分かりやすく表示しています。	椅子やテーブルの配置は利用者が動きやすく工夫がされ、居心地の良さが感じられる。使い心地に配慮した手作りの足置きやリビングだけでなく玄関や廊下の壁にもスタッフが利用者とともに身近な材料で作った季節を表現した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる時間が多く、テーブルとは別に椅子などを置き、個々が自由に過せる空間にしていますが、それぞれ自分のお気に入りの場所を確保しているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物や馴染みのある家具など持参して頂いています。心地よく過して頂く様にご本人と一緒に部屋の配置など納得されるまでお手伝いしています。	収納スペースがないため、各居室に箆笥が設置されている。箆笥や荷物の配置はそれぞれの利便性を考えられている。各部屋の入口のネームプレートは手作りされており温かさが感じられる。	居室内の買い置きのオムツが入居者の居心地に影響しない配慮やドアを開けた時に廊下からも直接見えない工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを念頭に置き、家事一般にそれぞれが出来る事から行って頂き自立した生活が送れるように支援しています。廊下には手すりの設置や、各場所に目印や表示を掲げ分かりやすいように配慮しています。		